レッスン：　17"A"

テーマ：時間・空間におけるマインド

MTIMES17A.DOC/AEN

親愛なる兄弟・姉妹たちへ、

スピリット・光・火の子供たち、私たちは常に神、絶対、神の聖性に包まれています。

　今日のレッスンは、私たちがマインドと呼んでいるスーパーサブスタンスを時間・空間の中で使用して、ノエティカルな像つまりエレメンタルを形成することに関するものです。「エレメンタルが私たちの生活を築く」と言う時、それはエレメンタルが私たちの地獄と天国…それらはひとつであり、同じなのですが…を築くことを意味します。

今私たちが知っている物質界、およびそれに続くサイコノエティカル界での生活は、私たち自身が築いたもの、あるいは他の人々が私たちのために築くのを私たちが許したものの結果です。

私たちの行動および他の人々との人間関係を通じて、私たちはエレメンタル、それらの想念体を築き、また他の人々がそれらを築くのを許し、その結果最終的に私たちの地獄あるいは天国を作り上げるようになるのです。

これまでのレッスンの中で、私たちの現在のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシス、つまり私たちの現在のセルフ（現在の自己）はこれら全てのエレメンタルの総計であると述べました。私たちが何に興味を抱くか、認識の仕方、野心、人生の生き方などは、それらに影響されています。私たちが真剣にエンドスコピーシス、つまり自己観察を始めると、現在のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスとして私たちが、これらのエレメンタルの総計以外の何者でもなく、それらのエレメンタルが私たちの形体を帯びていることがわかるでしょう。

一般に、私たちは肉体を自分のセルフ（＊自己）と理解しているようですが、肉体は無数の細胞、毛細血管、原子その他から成り立っています。多くの人々はこのことを理解しているのでしょうか？このことを理解している人はそう多くないようです。なぜなら、肉体が現在のパーソナリティー全体であると考える傾向が一般的だからです。

現在のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスの細胞や原子は、まさにこれらのエレメンタルひとつひとつであると言えます。それらは私たちが築いたものであり、私たちが創造して投射したものなのです。前にも述べたように、それは私たちの興味、私たちの弱点、私たちの情熱と想念を通じて行なわれます。

それらのエレメンタルが良いものでも悪いものでも、私たちはそれらを投射し、それらがまた私たちのところに戻ってくるのです。

なぜなら、現在のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスは磁石のように働くので、それらを元に引き戻すのです。

私たちはほとんどの場合、イエスが「唖でつんぼのようなスピリット」と述べた類のエレメンタルを創造しています。そして、それらの総計が人類の現在のパーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスなのです。

しかし、この総計したものは数えきれないほど無数のエレメンタルから構成されていることを理解する必要があります。肉体は食べ物によって維持されています。私たちが食べる食べ物の質と適性が肉体の健康に影響を与えます。

肉体が食べ物の良し悪しによって左右されるのと同じように、現在のパーソナリティーはこれらのエレメンタルの質によって毒されたり、浄化されたりします。

エレメンタルの質が現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスに影響を及ぼし、その結果、良い性格や悪い性格が出来上がるのです。

性格と呼ばれるものの意味、性格と現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスとの関係、そしてエレメンタルの創造との間に関係があるかどうか、について考察してみなさい。

前に述べたように、肉体は滅びるもの、死すべきものであり、肉体の構成物質が絶えず入れ代わるので、肉体そのものも絶えず変化しています。それは不断の循環です。私たちのパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスも同じですが、一つ違いがあります。肉体の場合、私たちは飲食する食べ物と呼吸からサブスタンスを得ますが、パーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスの場合には、私たちはスーパーサブスタンスを取り入れます。それは明確な形のない状態のマインドなのですが、私たちは自分の願望と欲望に応じてそれに形を与えるのです。それらの願望や欲望は汎宇宙的潜在意識の中ではすでに想念形体としてあるのですが、今度は現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスを通じて表現されるのです。

従って、私たちは肉体についてはそれほどの責任を負っていませんが、（自分自身の）現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスについては、（自分に）完全に責任があるのです。

以前に、現存している人間あるいは過去の人間が築いたエレメンタルが周囲のサイコノエティカルな環境の中を浮遊しており、私たちはそれらのエレメンタルを集める、と説明しました。それらのエレメンタルは築かれ、創造され、そして存在し、いつでも私たちによって引き寄せられ、吸収され、私たちと一体になることができるのです。

　　しかし、この場合でも私たちは自分に責任があるのです。なぜなら、現在のパーソナリティーは磁石のように働いて、そのパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスの特定の気づきのレベルと引き付けあうような、それと調和するようなエレメンタルを取り入れるからです。

ですから、それらのエレメンタルを取り入れて、それと一体になるのは自分自身の責任であり、他人や周囲の環境のせいにすることはできません。

私たちの周囲には、無知の暗やみの中で生きている人々が多数存在し、また思慮があり、いわゆるスーパーサブスタンスのマインドを意識的に使用する人もいます。従って、私たちの周囲のサイコノエティカルな環境の中には良い、建設的なエレメンタルも存在すれば、悪いエレメンタルも存在します。つまり、よく言われるように、天使も存在すれば、悪魔も存在するのです。**いかなる悪魔でもそれと同レベルの波動で振動しない人間には影響を与えることができない、という事実に注意を向けてください。**

愛する人々のために、忍耐をもって、神の慈悲として助けを提供する天使は沢山います。しかしながら、この助けは一時的なものにすぎません。というのは、もし人間がサイキカル的に向上しなければ、実際には向上しないからです。危険は一時的に回避できるかもしれませんが、**パーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスが想念や行動としての現れを変えなければ、その人間は向上しないのです。**

私たちの周囲には多くのエレメンタルがありますが、だからといって周囲の環境を責めることはできないと言いました。私たちの周囲にはいわゆるアルコール中毒者のエレメンタル、無価値と呼べるような人々のエレメンタル、社会の犠牲者と見えるような人々のエレメンタル、そして非運な人々のエレメンタルなど多数存在します。

　　時には、社会的あるいは経済的状況が特定の人々の明らかな苦しみの原因ではないかと考えたり、異なった状況にあれば彼らは問題を克服できたのではないかと考えるような場合もあります。また、自分たちの好ましい立場やチャンスを無駄に浪費して、本人自身や周囲の人々に苦しみをもたらすような人もいます。意志があるところには道があり、人間の行動はそれがどのようなものであれ、全てその人の責任であり、その人の決断によるものである、と結論づけることができます。

エレメンタルはそれが良いものであれ、悪いものであれ、全ての人々に存在します。アルコールの好きな人々は飲酒に関係するエレメンタルから、明らかに他の人々よりも簡単に影響されやすく、もしその人が抵抗しなければアル中になるでしょう。同じように、アルコールの影響を受けないような人々でも、ドラッグその他の影響を受けるかもしれません。しかし、そのような傾向や素因のない人で、異なったレベルの波動で振動している人が、そのようなエレメンタルに影響されるとは考えられません。これは私たちが常に体験していることです。

私たちは全員がサイコノエティカルな環境の中にいるわけですが、そこには過去のあらゆる時代および現在の悪いエレメンタルが存在し、また同時に過去のあらゆる時代および現在の良いエレメンタルも存在しています。それらは過去および現在の全ての人類によって創り出されたエレメンタルなのです。人があるエレメンタルを引き寄せて、それと一体化した結果、良い結果が生じても、悪い結果が生じても、それは純粋にその人の責任です。

私たちはこの点に注意を払い、自分たちが引き寄せ、取り入れたものに関して、他に責任を転嫁することのないようにしなければなりません。真理の探究者であるあなたはこの点について大いに注意する必要があります。なぜなら、あなたは多くのレッスンを読み、エクササイズをスタートし、正しい思考の道を歩み始めており、識別・選択・評価というプロセスを通じて、自分の行動に対して責任を取ることができるはずだからです。

真理の探究者は自分の問題は自分自身で解決することを目的とすべきです。その結果、自分の特定の問題に対して正しい思考を適用することによって、自分自身のやり方で個人として成長できるのです。家族という単位の一員として、同時にその人が生きている特定の社会という広範な環境の一員として機能できるような個人的存在として成長することを目的とすべきです。

あなたの霊的な師（ギリシャ語では師のことをダスカロスと言う）は、助力なしでは問題の解決が困難な場合を除いて、生徒の個人的出来事に関与すべきではありません。ダスカロスと生徒は生来の質として信頼関係にありますが、しかし学んだことを実行するのは生徒の責任です。

**私たちがマインドと呼ぶこのスーパーサブスタンスは私たちの周囲、そして私たち全員の内側にあります。この永遠に尽きることのない泉は私たちの内側にあり、それはインナーセルフ（内なる自己）、つまり私たちの魂のセルフ・エピグノーシスの本質なのです（しかし、私たちのインナーモスト・セルフ＜最内奥の自己＞の本質ではないのですが）。**

**この尽きることのない泉は豊かで、豊潤であり、現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスが常にそれを使用できます。しかし、現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスは私たちがマインドと呼ぶこの聖なる贈り物を正しく使用しているわけではなく、それを誤用しています。**

それを、よどんで臭気のただよう池のようなものとしてしまい、その結果、私たちは現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスを、利己主義、悪、憎しみ、嘘、俗悪なイマジネーションなどと関連づけるようになるのです。これらのパーソナリティーの中には、自分自身をも騙し、自分自身を真理の具現者であると心から信じ込んでいる人もいます。

他人を騙すことはありますが、自分自身、自分のセルフまでも騙すことが可能なのかどうかと疑問を持つかもしれません。しかし、周囲を見回してみれば、これはそれほど珍しいことではないとわかるでしょう。

真理の探究者は、イニシエーションのどのレベルにいようとも、何よりもまず正直であり、常に真理を求めるべきです。無知と迷信は世界の中で最もぎょっとさせるものです。私たちの最愛なる人（＊イエス・キリスト）が言ったように、真理だけが私たちを問題と無知から解放できるのです。

さて、私たちの周囲では人々はお互いを利用し合い、憎み、嘘をつき、争い、自分自身を苦しめ、他人をも苦しめている、と感じるかもしれません。しかし、私は個人的には、誰か他の人に苦しみを与えながら、本人も同じ苦しみ、あるいはその二倍の苦しみを受けていない人を見たことがありません。このような人々に対して、私たちはどのような態度で接するべきでしょうか？今は、思いやりと定義しましょう。医者が患者に対して抱くような思いやリです。しばらくの間、あなたはその形体と結果を目にしてぎょっとするかもしれません。しかし、あなたには患者を嫌ったり、憎んだりする権利はないのです。なぜなら、驚くかもしれませんが、もしあなたが周囲を見渡すと、あなたの家庭、あなたのいる環境内にはそのような患者が数多く存在することがわかるからです。

多くの人々は「心を急がせる」という恐ろしい習慣を身に付けており、彼らは自分の行動を説明することを好まず、勝手に誤解する傾向にあり、自分は全てを理解していると考え、またそれと気づかずに他人を非難したり、不当な態度をとったりします。多くの人々は、裁判官あるいは批評家の立場に立とうとする利己主義者であり、あれやこれに対して説明を要求します。

私たちは真理の探究者として、どのような態度で臨むようにしたらよいでしょうか？私たちは当然、周囲にいるこのような人々に対して寛容であり、忍耐心を持ち、周囲にいるそのような患者全てを思いやり、寛容、理解、同情をもって受け入れるようにすべきです。

勿論、もし彼らがあなたを思いやれば、あなたも彼らを思いやります。時には、あなたは愛する人々が傷つかないように、自分が取った行動の説明をすることがあります。もしそれによって彼らがあなたを理解する助けになるのなら、当然説明すべきです。

　　理由を説明してあげるようにしなさい。しかし、常に思いやる気持ちを抱きながらそうすべきです。さもなければ、黙っている方がましでしょう。黙っていることによって、多くの恐ろしい出来事が回避されています。時には、それが真実であっても、真実が相手を殺したり、傷つけることがあります。あなたは真理のために真実を知るのです。

　　もし相手が真実を受け取る準備ができておらず、もしその真実が相手を殺したり、傷つけたりする可能性があるなら、またそれが憎しみその他の否定的感情を生むようなら、時が熟すまで沈黙を守りなさい。

真実が相手を殺したり、傷つけたり、苦しめる結果となることを避け、矯正、修復のためにのみ真実が役立つようにするためです。それは私たちが真実を尊重しないからではなく、時が熟していないからです。私はこれを思慮分別と呼び、決して真実を無視することではありません。

ですから、真理の探究者は思慮分別を持ち、常に周囲の状況に心を向けるようにします。そのハートは相手が正しくても間違っていても、良くても悪くても、常に人々に愛の光を注ぐ灯台のようであるべきです。それ以外ではありえません。

　　前に述べたように、真理の探究者は常に心を開き、気づいているべきです。これは、自分自身および愛する人々を守るために、いわゆる悪に注意を払うことをしないという意味ではありません。それは、医者が患者を「愛する」からといって、非常に伝染性の強い病気に罹っている患者を幼い子供と同じ部屋に入れるのは馬鹿げているのと同様に、馬鹿げています。確かに患者には思いやりを示し、必要なできる限りの助けを提供すべきですが、不必要に他の人々に接触させないようにして、他の人々を守る義務もあるのです。

　　真理の探究者として私たちは成長し、思慮分別、眼識、愛、英知、沈黙によって導かれ、絶えず真理を求めるように心がけるべきです。

私たちは常に主なる神、絶対、主の聖性によって包まれています。

EREVNA/MTIMES17A.DOC/AEN 17A/4END